

「愛国心」だけでなく、「愛地球心」で創る世界

青海中学校 2年1組 岩崎 考良

1. はじめに

私は、8月5日から7日にかけて広島派遣研修に参加して来ました。

私は、テレビでロシアとウクライナの戦争を見て戦争の本当の恐ろしさとは何だろう、戦争はどうして起こるのだろうと思い、参加しました。

2. 多賀さんの講話

まず、1日目に原爆被害者2世の多賀俊介さんのお話を聞きました。多賀さんは、原爆が広島に落ちた5年後に生まれました。多賀さんが生まれた時の広島は、原爆が落ちた跡が残っていて、電車に乗っていると手にやけどを負っている人や、片足がなくて道で「お金をください」と言っている人もいたそうです。多賀さんは幼い頃は、戦争に対して興味がなかったそうですが、多賀さんのおばさんの足にガラスが刺さっていることを知り、戦争に対して怖いと思い、大人になって広島県原爆被害者団体協議会に入ったそうです。

私が今回、多賀さんの講話で最も心に残ったことは、ある外国人が言った「平和は言うことではない、創ることだ」という言葉です。次の世代を築くのは私達なので、「戦争のない平和な世の中」を創っていけるようにしたいです。

3. 平和記念式典

2日目は、平和記念式典に参列しました。私は代表の小学生の「願うだけでは平和は訪れません。」という言葉に心を打たれました。世界中のたくさんの人が

平和を願っています。しかし、実行しなければ、意味がありません。生きてくても生きられない人、明日を共に過ごすはずだった人を 79 年前と同じように失ってははいけません。世界中の人が多様性を認め合い、相手の考えを良さと捉えることが大切です。

また、原爆被害者は当時のことを語ろうとしなかったということに、私は最初驚きました。自分が経験したことを話せばいいのに、なぜ話をしないのだろうと思いました。しかし、自分にとって嫌なことを話すのは簡単ではないと思いました。それほど原爆は恐ろしいものだと思います。それでも、原爆の恐ろしさを後世に伝えて、戦争を絶対に起こさないようにしたいです。怖いことも勇気をもって行動できるようにしたいです。

4. 戦争の兵器を見て感じたこと

その後は、大和ミュージアムに行きました。戦艦大和を見た時、最初はかっこいいと思いました。しかし、よく考えると、戦艦大和のようなものが作られるから戦争はなくなるのだと思います。戦争をなくすためには、戦争で使われる道具をなくす必要があります。また、原子爆弾が落ちてすぐに亡くなる人だけでなく、何年か経ってから放射能の影響で亡くなった人もいました。私は後から亡くなることを止めることのできない時限爆弾のように感じ、恐怖を感じました。このことから、世界にある戦争に使われる兵器をなくせるように訴えていきたいです。

5. 最後に

今回の広島派遣で、戦争の恐ろしさについて詳しく学ぶことができました。原爆が落ちたのはそれまで戦争を続けてしまった日本人にも良くないところがあ

ります。そして、平和を創るのは私達です。私達の行動で次の時代がどうなるか決まります。愛国心を持ち過ぎて行動してしまうと、戦争にもつながります。そのため、愛地球心を持って行動することを心掛けたいです。平和を次の時代につなげられるように頑張ります。